



滋賀県PTA連絡協議会広報紙



発行者

 滋賀県PTA連絡協議会
 滋賀県PTA安全会
 会長 松浦 洋子
 制作 広報委員会
 印刷 竹田 膳 写堂

つながろう 今、 つなげよう 未来へ 滋賀でつながった! 保護者の想い!



秋晴れの青空が広がる琵琶湖畔で、11月6日、第41回日本PTA近畿ブロック研究大会滋賀県大会が開かれた。

全 体 会

場所 びわ湖ホール

記念講演

「文字の力 言葉の力 生きる力」

書道家 武田 双雲氏



司会者の紹介と共に満面の笑顔で上下紺の作務衣姿でステージに登場された双雲氏。「今日ここに居られることの素晴らしさ」から始まった講演は「感謝」することの大切さをメッセージとした内容であった。琵琶湖ホールの素晴らしさ、ホテルの食事や大会スタッフへの感謝、また新幹線や湖西線に乗れることなど、日常当たり前になりがちのところまで、あらゆることが

感謝することに気づかせてくれた。また双雲氏は自分の人生を実験台にしているという。毎日「感謝の気持ちだけで生きたらどういう人生になるのだろう。ポジティブっていう感覚を身にまとったまま生きた人間はどういう人生を歩むのだろう」という実験をしているという。すべてのことに「今あること」を感謝し子供の頃から宇宙好きであったことからニュートリノ、原子、分子から、地球や月の角度が一度違っていたら我々はあったのだ

ろうかという宇宙規模の「今あること」への感謝や「一期一会」の心持ちまで奥深く語られた。

双雲氏は、ひらがな一つで人生は変わるのだという。もし「紅茶、麦茶、どちらにしますか?」と聞かれたら、二通りの答え方がある。一つは「麦茶 でいいよ」もう一つは「麦茶 がいいよ」この「で」と「が」の違いで受ける印象が全く違う。普段何気なく使う言葉でも、平仮名一文字意識して使うことで大きく人生が変わるといふ。漢字の「田」という文字を、来場者全員に書かせる筆跡による性格判断などもあった。また「滋賀」の「滋」は滋養すなわちエネルギーを表し、「賀」は加えるに貝と書き、お金を表す。「お金・加える・エネルギー」＝「さすが近江商人」と、会場は大きく盛り上がった。

概念は表情から生まれる。未来と今は相互関係にあり、「この先どうなるんだろう?」という言葉で暗い表情で発するか、明るい表情で発するか、言葉を発する前に、表情に気をつけることが大切だ。つまり今この瞬間が満たされ、今幸せそうに振る舞うことが人生の秘訣なのだ。

最後は、来場者全員で感謝の体験を行った。来場者一斉に椅子から立ち上がる。一回目は「足腰痛いとか、いやそうな感じ」で立ってみる。二回目は「赤ちゃんがハイハイから立った時のような笑顔」で立ってみる。会場の空気が大きく変わった。

次は、お尻の肉と椅子のクッションに感謝して座ってみる。すると、さらに会場の空気が温かさに包まれた。「そういうことです。今までにすることがなかった感謝、椅子からお椅子様にかわるでしょう。」

「そういうことなんです。どこに意識を向けるかで人生が変わります。毎日がパラダイスになるんです。」

会場全体が一体感に包まれ、感謝とともに講演は終了した。

第63回日本PTA全国研究大会 札幌大会

8月21日・22日 開催

ひろがれ 子の未来! つながれ 親力!

8,000 名近い参加者のもと、1 日目は、10 会場にて分科会が行われ、2 日目は、脚本家 倉本 聡氏の記念講演がありました。滋賀県からも 26 名が参加し、他県の方々と交流を深めました。

全 体 会 記念講演

「あなたは子どもたちの想像力を 育てていますか」

講師 倉本 聡氏
脚本家・劇作家・演出家

ドラマ「北の国から」で有名な倉本聡氏の講演は、人間の弱い心・環境問題・親子のあり方などについて独特の語り口により時には厳しく、時にはユーモアを交えたものでした。約八千人の参加者は倉本氏の体験談に惹きつけられました。

子ども時代は戦争中の数多くの体験により自ら学び、父母からかけられる言葉によって「躰けられた」事も多かったそうです。

また倉本氏は「闇の怖さを富良野で知った」といいます。

「最近の子どもは本当の闇を知りません。24 時間、街に明かりがついているため遅い時間まで出歩いていますがこれは異常です。」と現代の子ども危険性に触れ「夜に明かりをつけるようになったからエネルギーが足りなくなり原子力に頼らざるを得ない」と環境問題にも言及されました。「子どもが五感で感じる経験が減り人間が、いびつになっている」といいます。

倉本氏の主宰する、役者とライターを養成する「富良野塾」は家を建てることから始まる自給自足生活です。富良野塾で必要なのは①水②ナイフ③火④食料 加えて「人」ですが、都会の若者の必需品は①金②携帯③TV ④車でした。真に人間が生きるために必要なものを見失い、便利さを一足飛びに手に入れようとする行動にも警鐘を鳴らされました。

倉本氏は、ろうそくに火を灯してお風呂に入られるそうですが、「ろうそくの減り具合で入っている時間が目に見えるから」だそうです。電気は目に見えないのでつい無駄遣いしてしまいます。また昔の赤電話は 10 円玉の減り具合で使った額が目に見えますが、スマホは銀行引き落としでどれだけ使ったか分からない。「学校で教えないからではない、父母がしっかり教えて下さい。」と強くおっしゃっていました。

現代資本主義によって便利になった世の中は、富士登山を 5 合目まで車で行って「登った」というようなもの。子どもたちにはゼロメートル地点に立ち、原点からたくさんの選択をさせる「想像力」をつけさせねばならないという言葉が印象的でした。

分 科 会

第2分科会 家庭教育 ～奏でよう心のハーモニー～

「家庭力を高める」をテーマに、札幌市円山動物園田中園長の基調講演、札幌市内小・中学校の PTA 実践発表があり、其々「自然とのふれあい体験」、「家庭・学校・地域の連携」の大切さが訴えられました。その後のパネルディスカッションでは、「家庭力とは?」のコーディネーターの問いかけに対して、パネラー・参加者から思い思いの「想い」が披露されました。最近では、何事も学校教育に責任を押し付ける傾向がある中、「教育の原点は家庭」であることを再認識し語り合うことが、「家庭力を高める」ことに繋がるということです。「家族のふれあい」が希薄になってきている今、各家庭でも是非語り合いましょ。

第8分科会 食から得られるいのち

同テーマで駒谷信幸さんの講演を拝聴しました。有機農産物と林間放牧による野生牛の生産販売をされている駒谷さんは、化学肥料や農業による安全性の懸念について力強く訴えられました。

また生産者と消費者の距離を近づける一環として「農家民泊農業体験」の実現にもご尽力され、その実績より「食育基本法」制定にも関わられた経緯をお持ちで、食が子どもたちに与える影響の大きさを力強く語られました。

「毒を食べさせていませんか?」という言葉に、「親として選ぶ目をしっかり持たないと」と、改めて考えるきっかけとなりました。



24時間、お子さまの「万が一」に安心でお応えします!!

PTAが窓口の団体制度だから保険料が
約**55%**割安!!

年度の途中でもご加入いただけます。

プランは 4 タイプ (年間保険料 6,000 ~ 12,000 円)

学校内外問わず、夏休み期間の外出先やレジャー中の事故も補償されます。



傷害補償



急増中!!

自転車事故も補償



賠償責任補償



特定感染症補償



育英費用補償

資料のご請求・お問い合わせは、
滋賀県PTA連絡協議会「園児・児童・生徒 24 時間総合保障制度」係

☎ 0120-577-415 (平日 9:30 ~ 17:00)



あるスタッフのつづやき

PTA活動にともだちの作り方

第41回日本PTA近畿ブロック研究大会 滋賀県大会

2015 年秋、夜 7 時を過ぎたころ、滋賀県庁の横にひっそりと建つビルに次々と人が吸い込まれていく。あたりの静けさとは打って変わって、ここは熱気に満ちている。

ここは、滋賀県 PTA 連絡協議会の本拠地だ。

PTA 活動を始めるともう何年になるだろうか。幼稚園、小学校、中学校、気が付けば上の子はもう高校生だ。どんな活動にもそれなりに意味や意義があって、努力が形になったり、誰かと喜びあったり、愚痴りあったり、それがまんざら嫌でもなくて気が付けばこんな大きな大会の委員など引き受けてしまった。

「第 41 回日本 PTA 近畿ブロック研究大会滋賀県大会」なんて長い名前だろう。いつも全部言えずにことばを濁してしまふ。毎年一回、近畿の府県と政令指定都市のうちいくつかが持ち回りで開催地を引き受ける。今年は滋賀の番。

「41 回って、41 年か」

第 1 回目は昭和 50 年の開催だ。その当時私は 6 歳。頼まれごとを引き受けやすい性質の両親はきっと、PTA にかかわっていただろう。ひょっとすると参加していたのだろうか。書類を横目に想像してみる。

もう、大会の当日まで二か月を切った。

異種格闘技

会議が迷走している。講演会を仕切る部会、分科会を仕切る部会、印刷物を担当する部会、そして全体を仕切る部会。それぞれに頑張っているのだがどうもかみ合わない。

PTA なんて保護者の集まりだから、仕事も趣味も志向もスキルもちがう。案外コミュニケーションがとりづらい。苦笑いを作る余裕もなくなるスタッフを会長がフォローする。

とりえず皆、やる気だけはあつた。近畿圏の PTA 会員が 1800 人近く来場するのだ。考えただけで身震いがする。それぞれの部会のリーダーたちの緊張たるや想像に難くない。

去年の早い時期から実行委員会が組織され、少しずつ仲間を増やしながら今に至っている。

来場者のために、と気負うが、実のところこのちまちました会合の繰り返しで他人が知人になり、いつの間にか友人になるプロセスはとても魅力的だ。大人にだって仲間は必要だ。

通奏低音

この大会の実行委員になった面々は、県内から集まった人々だ。彼らの職業は実に様々だ。教師、営業職、受付、団体職員、農業、主婦、行政、議員、販売員、大工、技師、看護師、行政委員会委員、会社経営、接客業、数え上げたらきりが無い。そして、彼らを結ぶのが PTA の役員経験者であるという点だ。

就任の背景も様々あるだろうが、PTA で役を受け持つということは、貧乏くじに当たったように受け取られることが多い。今回も、実行委員をやるのに作ってもらった名刺を、配る当てがないので友達に 2、3 枚あげた、案の定

「大変やねえ」

「うわあ」

と、驚いているのか、ドン引きしているのかが分からないリアクション。ボランティア精神を発揮すると、珍しがられるという特典が付いてくる。

たしかに、物好きだ。報酬もないのに休日をなげうって会議に参加している。子どものために、と言いつつ子どもに留守番をさせている。われわれは、何に突き動かされているのだろう。

でも、それは本当にいけないことなのだろうか。この活動のもたらす意味や思いを語らずに、事柄の大変さだけを伝えれば「PTA なんてなければいい」って簡単に言える。

何かの本で読んだ「人を不幸にするのに一番の近道は、関係を断ち切ること」だそう。とすると、PTA って真逆だな。多少、方法に難ありって気もするが。

大いなる反省

この間、子どもの運動会で選手宣誓をした児童が言っていた。「練習は大変でした、けれどもつらさを乗り越えないと成長できません。全力を尽くします。」

一瞬、子どもに負かされた気がした。

「親のありがたみっていうかさ、自分が親になってみてしみじみ感じんねんけどさ。」

けどこれって結構、おごってるよね」

となりの席の茶髪の兄ちゃんが言った。腰のチェーンがじゃじゃらと鳴った。

「要は、親にならしてもろたんよ。」

「がんばらんと、クビになるなあ」そう言いながら、嬉しそうに拍手していた。逆転の発想か。

オーケストラ

10 月 18 日曜日。荷物を運ぶ腕に力が入る。今日を入れると後二回しか作業のチャンスはない。背水の陣だ。パソコンもプリンタも、各種道具を総動員して作業に当たる。大会要項の校正も今日中でなければならぬ。一言一句の間違ひも見逃すまいと、その場の全員が目を凝らす。

「あ、23 ページ改行間違えてる」

「15 ページ、フォントサイズが違う。」

次から次へと指摘が飛ぶ。

気が付けば外は真っ暗だった。それでもまだ終わらない。誰も愚痴を言わない、見過ごしてもいい失敗もあったが、もう一度トライだ。誰もが自分の全力を尽くす。みんながこいいぞ。

虹の彼方に

さっさと、最後の確認の電話を置いた。私がふれたほんの一部と、仲間がつむいだたくさんの方の思いが十日後に弾ける。

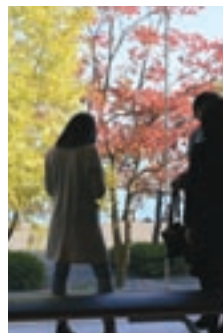
一抹の寂しさと期待が心の奥でうずく。

偉そうに聞こえるかもしれないが、環境は、与えられるものではなくて自分で作るものだと思っている。

半分は怠け心を戒める為、でも半分は本気だ。

しかし、ひとりではできないことには限界がある。誰かの力を借りなくてはとうとうしょうもないことがある。そして、助けられてようやく自分の小ささをしみじみ感じる。

保護者でいられるのはあと少し、こんな経験をさせてもらえたのも、子どもたちのお蔭だ。悔いのないように全うしたいと思う。親業を失業する前に、やり残したことがないか考えてみよう。しかし、PTA に祖父母枠はないものかなあ。



育てたいのは 子どもたちの未来。

「高校生国際交流プログラム」協賛
「いじめ防止標語コンテスト」協賛
「エコキャップ推進協会」への支援
「がん対策推進企業アクション」への参加
「新日本フィルハーモニー交響楽団」への支援
ほか

AIU損害保険株式会社

神戸支店

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-3-3

問合せ：078-360-2401 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)



JOIC GOLD INSURANCE PARTNER



地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動は、1999年度からNGOをパートナーに、地球温暖化の抑制に役立つマングローブの植林をはじめました。それから10年、「海の森」は5,000haを超える面積にひろがりました。マングローブ「海の森」づくりは、東京海上日動が地球の未来にかけた保険。100年間植林を継続することを目指し、取り組んでまいります。
*「マングローブ植林行動計画」(財団法人オイスカ)(1999年度～)「国際マングローブ生態系協会」(2009年度～)

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050
☎0120-868-100 午前9時～午後8時(平日、土日祝とも) <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

第41回 日本PTA近畿ブロック 研究大会

滋賀県大会

滋賀県のPTA 創意と工夫が光る!!



分科会

場所 大津プリンスホテル

第1分科会(組織・運営) え!? 彦P連? それって何?

彦根市PTA連絡協議会

彦根市PTA連絡協議会、通称彦P連では、次のような取り組みを行っています。まず、場にあった会長挨拶の工夫や、初めて会長になってPTAについて思うこと、PTA活動への積極的な参加を促す『1人1研修』などです。

他には、子育て環境の現状やPTA活動への認識を高め地域力につながることを期待し、研修会において一部の席をPTA会員以外にも開放し、市民の方々にも参加していただくことや、お父さんの研修会、就学前子育て研修会、幼小中部会などを開催しています。

また、彦P連の事業や活動を精査するため本部役員OBと現役本部役員による『あり方検討委員会』を別途組織し、年度末に会長への提言を行う機関を創設しました。そこでは、彦P連では経験された諸先輩方の話を聞く場を設け『PTA役員を経験してご自身にどのような変化があったか』、『これからの彦P連に期待すること』等についての意見を聞き、活動に活かそうとしています。

最後に、「単位PTAは子どものために活動します。彦P連は保護者のための活動をし、今後も子どものためによりよいPTA活動を目指していきたい」と締めくくられました。

第5分科会(広報活動) つなぐ 架け橋の広報

大津市立晴嵐小学校PTA

旧広報部は「晴嵐」と「ふれあい」を発行していました。二紙分の取材は負担が多い為、学校に来る機会が多い本部の人で作ろうと判断しました。「晴嵐」はそのまま引き継ぎ、「ふれあい」と「本部だより」をひとつにし、「てと手とて」と名付け、本部で作成することにしました。

学校に頻繁に来ている本部役員は、普段の子どもたちの姿を見られるので親目線で発信できています。「てと手とて」の発行は親子の会話の一つになり、PTA活動に興味を持ってもらうことで、学校や先生方との距離が近くなりました。また学校協力者会議メンバー、民生委員、学区の幼稚園・中学校へも配布したことで、地域の方々ともつながりができました。

今後はPTA室前の掲示板に広報紙やPTA活動の様子を貼り、掲示板でも子どもたちや先生方、保護者のみなさんをつないでいけたらと思います。

特別分科会 親子の笑顔がふえる魔法の質問

特別分科会では、各単位PTAからの参加者が受付で指定された6名テーブルにつき、グループワークに取り組みました。ABC3つの会場では、総勢600名が5-6名ずつのグループに分かれとくみました。グループワークは、魔法の質問認定講師である尾庭恵子氏、高坂翔輔氏、藤代圭一氏により進められました。



皆さん初対面同士とあって緊張した面持ちで始めましたが、ニックネームでの自己紹介、講演後どうなっていたかという目標を互いに伝え合うなどするうちに、和気あいあいとした雰囲気になっていきました。発表の後には必ず「いいね!」や拍手で受け止めるというルールがあり、最後まで笑顔が絶えませんでした。たくさん質問あって互いの共通点を見つかったり、嬉しかったことを発表し認め合うワークを通しては、肯定的な問いかけによる気持ちの引き出し方がいかに心を近づけるものであるか実感できました。また、自分が言われて嬉しい言葉を発表しその言葉でほめまわされるワークでは、一人ひとり言われて嬉しい言葉が違うことも実感し、子供との関わり方のヒントを得ました。各ワークにおいて伝え合い意見をシェアすることで、自分とは違う視点を持つ人がいることを知り、見ているつもりでも見たいものしか見えていないことに気づく等、はっとする様な参加者の表情が印象的でした。

最後に、素晴らしい10年間を送った後久しぶりに友人と出会うという設定で質問しました。未来を肯定的な目標で捉えたこのワークは、この日の一番の盛り上がりとなり笑いがあふれました。表題「親子の笑顔が増える魔法の質問」の通り、質問の仕方次第でやる気が出ることを体験し、参加者全員が魔法にかかった2時間となりました。



ますます
盛り上がる!

スマホ子ども委員会



活動を始めて2年目になります。昨年度は、子どもたちのスマホやインターネット等の利用状況を子どもたち自身で調べ、各家庭で話し合うきっかけづくりを行いました。今年度からは滋賀県PTAが主催となり、引き続き兵庫県立大学・竹内和雄先生コーディネートのもと、さらにバージョンアップした活動をしています。子どもたちによる動画のシナリオ作りから、ライスタンプ作成など、アイデア満載です。今年度の委員会は延べ4回開催され、第5回目は12月5日(滋賀県PTA大会)野洲市のさざなみホールにて取り組みの発表が行われました。(詳細は、次号で紹介)

*** PTA安全会より ***

PTA行事参加中に事故が起こったら…
各単位PTAを通じ下記へご連絡ください。

AIU損害保険株式会社

取扱代理店

(株)アーク・スリー・インターナショナル

〒520-0051 大津市梅林一丁目3-25 大津駅前1st森田ビル4F

TEL(077)527-6823 FAX(0120)527-606

(平日:9時30分~17時まで)

滋賀県PTAホームページ <http://www.shiga-pta.jp/>

編集 後記

今回は近畿ブロック大会開催記念全面カラーです。大勢の人たちの手で作り上げられた大会は無事終了。つまずいたりもしましたが、大会の臨場感とスタッフの想いも伝わると嬉しいです。